

議案第 66 号平成 27 年度一般会計補正予算第一号について反対討論

この補正予算は、歳入においては主に前年度繰越金を活用するために計上し、歳出で基金に積み込んでいます。この点については基金の充実という点からは評価するところですが、積み立ての考え方については、減価償却費をもとにした一定額の積み立てを実質収支額に係らず、当初予算の段階から予算化する考え方をもつことが必要です。さて、この補正予算の中に、歳入に都市基盤整備基金を自転車駐輪場等整備費に充当した予算が含まれていることは遺憾です。

調布駅の自転車整備においては、当初平成 16 年に、京王線地下化に伴う工事の中で地下駐輪場整備が利用者の利便性を高めるという方向が示されました。その後地下駐輪場設置は困難、地上部で処理する計画との方向性が示され地上部に変更、更にその後必要台数の確保が困難との説明から新しくオープンする再開発ビルへの設置、並びに駅前広場地下への駐輪場整備が示されるなど調布駅周辺の駐輪場整備に対する方針が二転三転してきました。

そもそもこの事業は、平成 26 年度予算審議の際に、整備費にかかる予算を除いた修正案が賛成多数で可決された課題の多い事業でした。修正案の賛成意見には、「鉄道事業者の協力をあおぐべき、費用面から市民への周知を。」或いは「50 年、100 年と使い続けるのだから、果たして地下につくるのが妥当なのか」との疑問も出され、その後、市民アンケートを取るなどの経緯も経て今回の提案になったものです。私は補正予算上程時に、しっかりとしたまちづくりのビジョンが構築されていないことが、計画が二転三転した原因だのではないかという点から質疑。また、地下駐輪場整備のメリット、デメリットをどう整理し、把握されているのか。地下化することは半永久的にこの施設を利用することですが、その土地利用、メンテナンスも含めた経費の問題、施設利用時の安全性・利便性の問題、高齢化による移動困難者が増加するなかでの垂直移動の負担感等への配慮は欠かせませんが、高齢者・障害者のスムーズな移動などについて平常時以外にも、最近の異常気象による集中豪雨、地震などその被害について何を想定して設計するのか質疑しました。答弁ではデメリットとして、自転車を押して移動することは、平地と違って地下は負担が大きいとの答弁でした。駐輪場問題は予算案を修正した議会としても何らかの代案が必要だったのでは考えますが、21 世紀の調布市のまちづくりの骨格をつくる 100 年の計の一環と捉えれば、設計委託を延長し、いったん立ち止まり、調布駅周辺の情報を出して、鉄道事業者への協力も得ながら鉄道敷地への効率的な配置の検討、或いは今ある駐輪場の効率の良い運営、回遊性を考慮した場所への配置も視野に入れた検討など、地上設置の可能性を見出す努力をすべきだったと考えます。そのことで長期間にわたる駅前広場の閉鎖といったデメリットも解消できるのではないのでしょうか。今回提案されている事業は国からの補助を見込み行うのが前提ですが、これも国民という視点から捉えれば市民負担になることです。今、立ち止まって考える機会を得たわけですので、21 世紀の調布駅周辺がどうあるべきかについて、まったをかけた議会として長期的な視点から駅前駐輪場はどうあるべきか地上設置も視野にして、財源ありきではなく、まず調布駅周辺のまちづくりビジョンを共有し、異常気象等も考慮し、高齢化、そして自転車の大型化への対応、何より市民にとって負担感の少ないスムーズな移動を基本に据えて、地上設置も視野にした慎重な審議が必要と考える立場から、駐輪場の地下案を前提に整備をするための補正予算については、反対するものです。